

## A15a 次世代の恒星研究について

斉尾英行 (東北大理)

現在までに行なわれて来た恒星物理学研究を外挿し、この分野の研究が将来どのような展開になるかを想像する。たとえば、将来期待できる超高角度分解能観測による恒星表面の分解および、衛星による恒星振動の観測で期待される星震学の発展による恒星内部の密度温度分布の実測等の観測的発展が、まだ確立されていない恒星内部での対流、自転の角速度分布、非球対称恒星風とダスト形成、及び恒星磁場等に対する理論の発展に及ぼす影響等について考察する。